

第 6 回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

- ・日時：平成 20 年 5 月 20 日（火）15:00～17:00
- ・場所：第 1 委員会室
- ・出席者：会長ほか 4 名
- ・市側出席者：桑山市長、中山副市長、藤田教育長、坂本水道事業管理者ほか、部長級職員、事務局

議事内容：（発言要旨）

（ 1 ）平成 19 年度行財政改革 実施結果について

（事務局）実施結果の概要について説明

（会長）未達成の項目は、なぜ達成できなかったのかをまとめてオープンにしてほしい。

（ 2 ）平成 20 年度行財政改革の取り組みについて

（事務局）3 つの取り組みについて（資料 4） 財政計画について（資料 2） 専門委員会提言書（資料 3） 提言に対する行革の推進方策について（資料 5）説明

（委員）財源がきちんと地方に配分されていない。今の状況は、自治体が行革できる範囲を超えている。

総合計画中期実施計画もきちんと実行できるかどうか分からない状況だ。大きな新規の事業を凍結・見直しするべきではないか。そのことを一番に着手すべきで、中期実施計画では、ハード事業を思い切って見直ししてほしい。

（市長）やるべきことを計画的にやろうとしている。行革の根本はシステム改革。見直すことは大切である。

（会長）行革は、これで終わりということはない。継続してやり続けてほしい。

（副会長）公社の抱えている借金により財政圧迫を招いている。この後、どの程度差損が出てくるのか。

（総合企画部長）公社の差損がどの程度出てくるかだが、地価が簿価額の半分のような状況である。売却すれば、差損が生じる状況となっている。

（委員）健康づくり、食育づくりはどうしていくつもりか。

（こども保健部長）ほかの部署との連携事業として「こけない身体事業」を行っている。事業を行う地域を増やして、サポートや育成事業を行う。食育についても重要な要素であり、健康づくりにも結びついている。地域の方々と連携しながら進めている。

（委員）メタボ対策などは、職員に協力を呼びかけて率先して実施してほしい。禁煙運動も徹底してやってほしい。

（委員）「協働事業」とは、具体的にどのようなことをするのか。

（地域振興部長）中山間地域では、機能を維持することができない限界集落が増えている。早い段階で組織づくりを行うことが必要。今後、公募方式による協働の事業募集を行う予定である。住民の皆さんが意欲をもって行えるよう進めたい。

（委員）パブリックコメントはホームページだけでなく、町内会等にも示していける仕組みがあったほうがよい。

（委員）昨年、事務事業総点検の外部評価の結果をパブリックコメントしたが、次回の再点検でも行うつもりか。

（事務局）外部評価のパブリックコメントは今年度も実施したい。

(会長)市の方針や説明に、「検討」という言葉が多すぎる。もっと数値を示して論議できるようにしてほしい。数値が効果として見える形で、代表となる数値がどうなるのかを示しながら議論するやり方を考えてほしい。「見える化」に続いて、「納得」というキーワードを頭においてやってほしい。

(委員)健康と食育は、健康増進課が所管だが、教育委員会も連携して進めてほしい。

(教育次長)ご指摘のように進めたい。

(委員)専門委員会の提言の中に、市職員の危機意識が浸透していないとあるが、どういう理由からか。何をすればよいと思うか。

(会長)職員には、行革に対してこれでいいというのではなく、限りなくゼロに近いものに持っていく意識を持つということだ。民間企業と意識がずれていると思う。職員には、もっともっと危機意識を持ってほしい。意識を共有してほしい。研修も必要だ。できるだけ「見える化」を進めてほしい。本当のことは見て、知るということ。未来を見る過程が必要だ。全国的に地方財源不足の拡大傾向は周知のことで、他人事ではなく、自分のこととして意識してほしいということだ。それぞれの部署では一生懸命取り組んでいるのに、全体で見ると効果が上がってなく、合成の誤謬が生じている。トップの意識がどうか、トップや上司がどう語るかが重要だ。変わるか変わらないかは、トップや上司がしっかりと意識を持つことしだいだ。

(財政部参与)税収が伸びないということだが、H19年度市税収納率は、3月末91.3%から91.65%まで伸ばすことができた。収納率の目標を92%にして頑張っている。

(会長)8次行革は、18、19年度目標を達成しているのだから、100点だし、歳入増等の取組みは評価している。ただ、大きな意味で交付税制度、税制度、移譲事務など、地方に厳しいということだ。

(委員)新規事業の採択に当たっては、事業効果をきっちり見極めてほしい。

(会長)事務事業再点検の点検フローのやり方で、骨を削るとなると、この流れでは目的達成が難しいと思う。この流れの逆があってもよいのではないか。まず大きな数字、何億円減らすかを先に決め、次に具体的な方針を下に示して進めるやり方。この2つの流れがなければ、骨を削ることはできないと考える。トップダウンの流れも必要なことだと思う。それにともなって、強い抵抗を受けることが予想される。なぜできないのかを真剣に考えて、その原因を見極めてほしい。市民サイドから見て、なぜできないか、明らかにしてほしい。

その辺の手法や、どうあるべきかの考え方の整理を、そろそろしていかなければいけないと思う。

(4)その他

今後の予定 10月下旬 次回推進委員会開催

11月頃 実行計画見直し結果の公表